

平成25年度
南相馬市立原町第三小学校
学校図書館支援活動報告



平成25年度 南相馬市立原町第三小学校 学校経営グランドデザイン



[教育目標に添った学校図書館のマネジメントサイクルを行う]

南相馬市立原町第三小学校 学校図書館支援活動

担当 : 込堂 小百合

[テクニカルサービスによる学校図書館の本格的経営]

分散された資料を的確にまとめ、小学校という現場に合った資料の収集や選書に力をいれる。

震災以降、杉並文庫など多くの寄贈本に恵まれたが、専門の支援員が配置されたことにより的確でスピーディーな受入業務をこなし児童に提供することが可能となった。

原町第三小学校は今年、支援活動が二年目ということで前年度のレファレンスを参考に充実した資料を収集することができた。特に郷土資料（主に行政資料）など授業に役立つ資料は先生から相談を受けたらすぐに提供ができるよう地域資料専門ファイルを作成した。また「調べる本の部屋」には「地域」、「国内」、「世界」と3つに分けた資料を収集

排架することで支援員を待つことなくいつでも知りたい時に手に取れる環境作りに徹した。

選書も学校図書館に必要な資料を把握し、足りない分野を揃えることができた。

南相馬市では、市立図書館より学校支援員を送り出しているため、さまざまな情報を支援員同志がキャッチしやすくなっている。また行政資料の収集をはじめ、気になる問題点やより専門的な分野などもエキスパートなスタッフに相談することによって技術の向上へと繋がった。

[パブリックサービスによる学校図書館の充実性]

児童一人ひとりにあった読書相談に応じ、満足する一冊を提供できるような対応をする。

支援員と職員、児童との信頼関係を築き「相談しやすい人」となれるように心がける。

学校の年間学習計画を把握することで、いつ、こういった資料を求められるか確認し必要な資料を準備しておく。

前年度のレファレンス内容を日誌に記録することで、職員に相談された時もとまどうことなく対応ができた。結果、相談した側も気持ち良く気軽に資料を求められると喜んで頂けた。また、レファレンスに対して偏りのない資料提供も心がけた。

例) 三年生の視覚障害者関連資料の相談

盲導犬や、視覚障害者の生活・点字図書などは全盲のみの資料となる。プラスαとして Low vision（弱視）・視野狭窄といったさまざまな障害に対応している拡大図書や、白黒反転図書などの資料も準備。視覚障害者用の資料も偏った提供を行わないようにした。

また、点字図書館のパンフレットやさまざまな活動のパンフレットも提供することができた。

もちろん、そのためには支援員自らが常にネットワークとイベント情報などのアンテナをはりめぐらせた結果の収集である。

市立図書館にある図書も積極的に活用し、毎月定期的にクラスへ団体貸出を行い、読書への興味や推進活動に力をいれる。借りた本が面白く、児童のロコミで他のクラスでも興味を持ち次の月には隣のクラスへ貸出すこともあった。

貸出図書は物語のみにとどまらず理科系へと興味を持てるような理科読の雑誌や図書、スポーツ関連図書、最近人気のケン玉や寄贈で頂いた一輪車の乗り方などさまざまな種類を準備した。特に人気の高かったのは雑誌『子供の科学』[誠文堂新光社]の「特集 もっと知りたい！ダイオウイカの深〜い謎、人だかりができるほどであった。

定期購読をしていた児童用の新聞は当初、物語の部屋に排架していたが動きがないため、工夫の必要があると考え、排架場所を高学年の教室前に移動。新聞を綴じていた表紙も図書委員に書いてもらい、自分たちの新聞であることを意識づける。また、届いた新聞のお勧めトピックスを確認し興味を持つようなタイトルを考えインデックスをつけてから排架することで、児童の目に留まり非常によく読まれるようになった。

学級文庫も担任の先生と相談しながら児童の学力レベルや季節などによって適した図書へと換えていき（絵本からやさしいおはなし・やさしいおはなしから物語へ）自立的な読書環境へと発展していった。

前年度からの「放送による読み聞かせ」は、杉並文庫が加わったことで紹介も兼ねて杉並文庫で購入した本の読み聞かせを行った。南相馬市と杉並区の災害時相互援助協定についても簡単に説明をいれることで理解や関心を高めていった。

[学校図書館という場所]

イメージアップ大作戦。

デッドスペースを徹底的に排除。明るく楽しい環境作りを目指した。

ディスプレイをいかして、さまざまな発見や新しい知識を楽しみながら紹介、季節を知り、風習を知る。

書架から飛び出して・・・展示による図書の紹介や気軽に本を手にとれる環境構成の工夫。また減読の傾向にある高学年には、受動体制に入らず能動的へと新しいブックトラックを廊下に置き、学級文庫とは違ったイメージで図書の紹介を行った。

他にも充実したワークショップや将棋が楽しめるプレイルームとして機能する部屋へと変身したことで児童が親近感を持ち、さまざまな楽しみを目的として入室してくる姿が見られた。

イメージアップ大作戦においては、第三小学校職員の皆さまの理解や協力なくては実現できなかった事も多々あり感謝の気持ちでいっぱいである。

委員会活動やクラブ活動など専門知識の指導なども行い NDC は興味を持った委員会の児童が積極的に排架の手伝いをしてくれた。

夕方遅くまで展示の準備をしていた時に特別クラブ活動をしていた生徒が通りすがりに「先生ありがとう」と声をかけてくれた。子どもはどこかで見ているのだなと感じ学校図書館と子どもとの絆が少し

ずつ形となってきたのではないかと思えた。

[市立図書館を知ってもらう]

市立図書館見学や団体貸出といったサービスの他に、市立図書館という場所を知ってもらうためにさまざまな情報提供も行ってきた。「市立図書館だより」を小学校に掲示・家庭でも読んでもらえるよう児童へ配布、夏季中の自由研究コーナーの紹介や課題図書排架のお知らせなど、子どもたちや保護者が市立図書館へ興味を持つような取組も行ってきた。

また、市立図書館からの貸出においては児童ばかりではなく職員室でリフレッシュができるような本も提供し職員との楽しい「**読みニュケーション**」も大切にしてきた。

先生少しお疲れのようだな、と感じた時に「面白い本を見つけましたよ」と声をかけるとちょっとした気分転換になるようだった。(懐かしのプロ野球選手関連や **tupera tupera** の絵本はちょっとしたブームにも)

学校支援活動はまだ始まったばかりで模索の状態ではあるがこの二年間で感じたことは私(支援員)が笑えば図書館を好きになってくれるということ。表情ひとつで多くの方々に図書館に興味をもってもらえるのだということがわかってきた。

写真による報告



物語の部屋の入口
楽しい時間の始まりを表わす



カラーセロハンで明るいイメージ



暗いイメージのカウンター



明るく変身・イメージチェンジ



古い図書が乱雑に入った状態だった書架を児童が足を止める書架へ



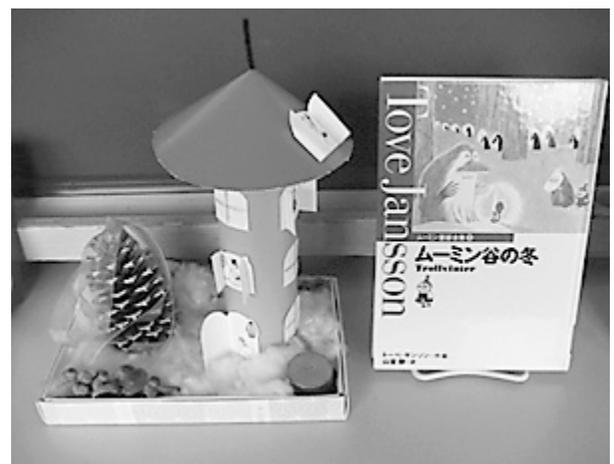
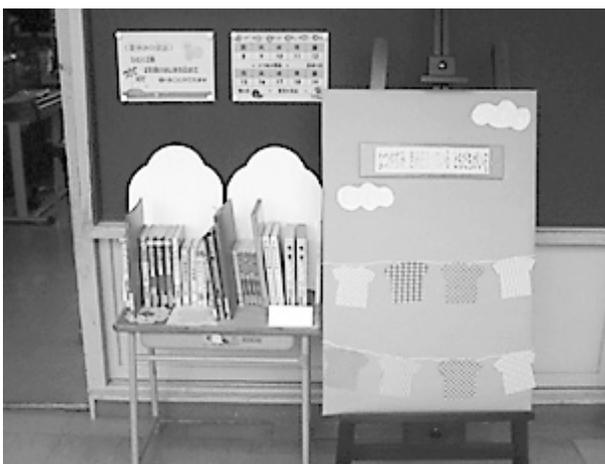
展示コーナー 入口を楽しい雰囲気へ



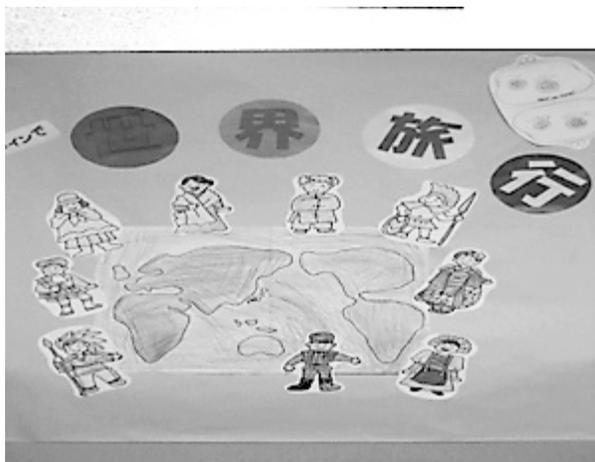
先生の話しを聞いて興味を持ちマヤ文明の図書を借りる児童が増えたので、展示コーナーを作成



配架も季節によって変える



さまざまなワークショップ



コインで世界旅行



てづくり絵本にチャレンジ



とんとん紙ずもう



「いつもにぎやか」

他にも読書週間をかねた「しおり作り」なども開催

いろいろな場所に本がある学校



書架から飛び出し子どもたちのもとへ



本を借りる子
ワークショップや将棋を楽しむ子

えほん『てぶくろ』の一場面
左上には1ページめのはなが・・・



東京五輪決定。号外が出ると
よんで新聞をチェック

お手伝いありがとう！

市立図書館より貸し出した合計冊数と学年別内訳

学年	1	2	3	4	5	6	支援	専科 (理科)	専科 (社会)	団体貸出
年間貸出冊数	58	88	13	72	614	3		20	66	23

合計 957冊

※ 5学年は読書推進に向けた毎月定期的な貸出依頼あり

平成25年度上半期読書調査 資料提供クラス低学年 (1年1組) 高学年 (5年2組)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計冊数
1年1組			175	66	4	65	306
5年2組	46	52	47	51	47	53	296

- ・低学年は絵本から次第にやさしい物語へチャレンジする姿が見られた
- ・高学年は物語を中心にさまざまなジャンルの読書を楽しんでいる姿が見られた

平成25年度上半期読書調査 校内全対象

	4月	5月	6月	7月	9月	合計冊数
冊数		107	518	526	424	1,575

- ・10月1日249人現在での調査
- ・市立図書館からの貸出本 学級文庫など台本板を必要としない図書は冊数に含まれず
- ・4月と8月は準備期間のため貸出なし

今年度は、市の図書購入に加えて、各地より心温まる寄贈図書を受け充実に蔵書冊数となる。劣化図書(汚損本や破損本)など今後の活用が難しい図書は除籍図書とした。

平成25年度受入図書の内訳		
図書	市より購入図書	寄贈図書
冊数	408	631
		合計
		1,039

※ 除籍図書 373冊

[主な寄贈一覧]

- ・学研
- ・理想教育財団
- ・ブックオフコーポレーション
- ・子どもの未来社
- ・福島県建設業協会
- ・鞆田くに奨学基金
- ・ロータリークラブ
- ・みつばち文庫
- ・杉並区(杉並文庫)

原町第三小学校在籍数

学年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	学力支援クラス	合計
人数	33名	37名	44名	35名	52名	48名	3名	252名

(平成26年3月末現在)

担当教諭： 津久井智美教諭 高橋淳子教諭